

2026年 6月 13日 (土) 13:00~ オンライン開催

参加費無料 (非会員の方も歓迎)

参加登録は[こちら](#)



第1部 (13:00~14:00) : 口頭発表

学生部門

『ランニングエコノミーの性特異的な運動学的決定因子：ラッソ正則化を加えた構造方程式モデリングによる知見』

永原 悠利 (立命館大学 総合科学技術研究機構)

オープン部門

『Mechanisms Shaping an Inverted-U Speed–Accuracy Pattern in Baseball Pitching of Collegiate Pitcher』

須藤 佑介 (立命館大学 総合科学技術研究機構)

第2部 (14:00~16:00) : シンポジウム

『国際的に求められるバイオメカニクス研究を考える: Journal of Biomechanics に豊富な掲載実績を有する、多様なキャリア段階の研究者の視点から』

司会：佐渡 夏紀 (筑波大学)

・研究テーマの設定と論文投稿の際に考えること

長野 明紀 (立命館大学)

・研究テーマの決め方について

福谷 充輝 (新潟医療福祉大学)

・それって考察？妄想？ : あるべきDiscussionを考える

佐渡 夏紀 (筑波大学)

お問い合わせ

慧ひろば事務局 : info-hp@jsbweb.org

## シンポジウム

『国際的に求められるバイオメカニクス研究を考える: Journal of Biomechanics  
に豊富な掲載実績を有する、多様なキャリア段階の研究者の視点から』

### 趣旨

本企画は、近年 Journal of Biomechanics に責任著者論文を複数本掲載されている、多様なキャリア段階の先生方にご登壇いただき、掲載の可否そのものを論じるというよりも、そうした実績を有する研究者の視点を通じて、バイオメカニクス研究として本質的に重要な点、ならびに国際的に求められている研究のあり方を探ることを目的とするものです。英文執筆上の技巧や投稿テクニックではなく、研究課題の設定、方法の妥当性、結果の解釈、研究意義の提示といった観点から、どのような研究が国際的に評価されるのかを共有する場にしたいと考えております。若手研究者や大学院生にとって、自身の研究を国際的な基準で見直し、今後の研究の方向性を考える機会となることを期待しております。

### 長野 明紀 (立命館大学) :研究テーマの設定と論文投稿の際に考えること

立命館大学スポーツ健康科学部 教授。1996年東京大学教養学部卒業、1998年東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了、2001年アリゾナ州立大学学際的博士課程修了 (Ph.D.)。株式会社日立製作所中央研究所、理化学研究所、ボストン大学、英国アバディーン大学、神戸大学等を経て2014年4月より現職。

### 福谷 充輝 (新潟医療福祉大学) :研究テーマの決め方について

早稲田大学にて博士号を取得した後は、日本学術振興会特別研究員PD、日本学術振興会海外特別研究員、立命館大学スポーツ健康科学部助教、講師を経て、現在は新潟医療福祉大学の健康スポーツ学科の准教授として筋収縮の研究に従事している。筋収縮に関する現象を、生体レベル、細胞レベル、分子レベルに至るまで幅広く扱っている。

### 佐渡 夏紀 (筑波大学) :それって考察? 妄想? : あるべきDiscussionを考える

筑波大学体育系 助教。2014年筑波大学卒業、2016年東京大学大学院大学院総合文化研究科修士課程修了、2019年同博士課程修了。博士 (学術)。早稲田大学スポーツ科学学術院を経て2021年1月より現職。